

陶祖・加藤四郎左衛門景正の足跡

陶祖・加藤四郎左衛門景正(通称:藤四郎/号:春慶)の生涯を記した藤四郎伝記は数多く残されています。これらの伝記によると、藤四郎は、後に永平寺を開山し曹洞宗の開祖となる道元禅師とともに貞応2(1223)年に中国へ渡り、やきものの技法を学んで帰国しました。その後、製陶に適した土を求め全国を巡る中、仁治3(1242)年に瀬戸の祖母懐に良い土を発見し、瀬戸で窯を開き、瀬戸焼の開祖となったとされています。毎年、4月の第3日曜日とその前日には、その偉業を称える「せと陶祖まつり」が開催されています。

藤四郎伝記は江戸時代以前には確認されておらず、中世にも藤四郎と関係する資料はいくつか存在しますが、いずれも伝説の域を出ないもので、その生涯は未だ解明されていません。

延享5年 1748	藤四郎の最古の伝記記録
宝暦2年 1752	8月5日、500回忌法要
文政7年 1824	陶彦社創建
嘉永3年 1850	位牌が宝泉寺に納められる
安政2年 1855	陶祖650年祭
明治38年 1905	正五位追贈
明治43年 1910	4月 瀬戸公園開園 6月 春慶翁700年祭
大正14年 1925	現在の陶彦社建造
昭和2年 1927	永平寺から院殿号の戒名が追贈
昭和27年 1952	陶祖700年忌
平成24年~平成27年 2012~2015	陶祖800年祭

陶祖顕彰のできごと



陶祖800年祭

瀬戸をあげて盛大に行われた「春慶翁700年祭」から100年が経過し、平成24(2012)年度から平成26(2014)年度に「陶祖800年祭」として、さまざまな事業を行いました。

ロゴマーク・マスコットキャラクター

陶祖800年祭を象徴するロゴマークとマスコットキャラクターを作成しました。マスコットキャラクター「藤四郎くん」は今でも多くの市民から愛されています。



瀬戸・藤四郎トリエンナーレ

瀬戸の土を“自ら採集し”“自ら粘土をつくり”“自ら制作する”世界でも類のない公募展を開催し、以降3年ごとに開催しています。



六角陶碑の内部調査

言い伝えでは、六角陶碑の中には、建設に尽力した加藤景登の娘が小石一石に一字ずつ記した法華経「一字一石経」が収められているとされていました。

六角陶碑完成後、約150年の時を経て、平成25(2013)年に陶祖800年祭事業の一環として、初めて上部の蓋が開けられ、内部調査が行われました。



調査の結果分かったこと

1 文字の字体からひとりの手ではなく、複数の人によって書かれていること。



2 一石につき一字ではなく、複数の文字が書かれたものも多く存在すること。最大で一石に20文字を数えるものがあったこと。



調査から文字の数を試算すると約74,000文字となり、法華経經典一式分(69,384文字)は今も六角陶碑の中に収められていると思われます。

